

Stokerized SS1 Bracketのテスト



製品の仕様は[セールスページ](#)をご覧くださいとして、それぞれのセッティングで実射をしました。

Revolverセットのものは40#仕様のSupra MAXにはちょっと重すぎる感じと硬質感そして若干の揺り返し感がありました。

おそらく、リボルバーウェイトの質量が大きいためと思われますが、いろいろと調整を試しています。

現時点では、このセット(Supra MAX 40#)には14インチアクリルの方が揺り返しも小さく相性がよさそうです。

あくまで近射での話なので今度の日曜日に千代田のスポセンで18メートルで比較テストを試してみるつもりです。



ところで、**Revolver**との組み合わせでロッドの前後位置を調整しているうちにロッドを巻いてあるロゴのラップシールが切れてしまいました。

このラップシールはかなり厚いため、ブラケットの止めねじの締め具合によってつぶれとキレが発生したようです。

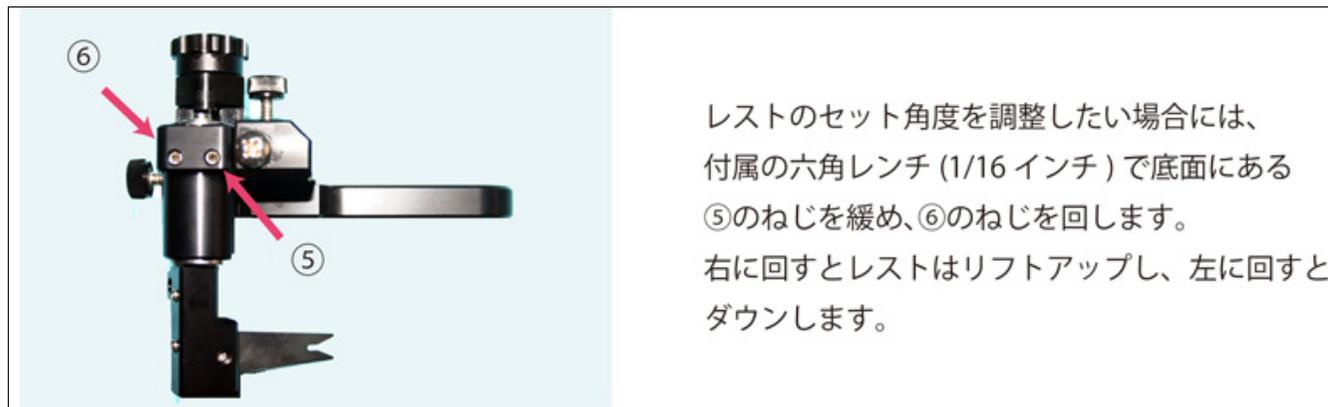
あまり見てくれが良くないのでテスト用のものは剥がしてしまいました。

ラップシールが多少はダンブに役立っていたかもしれませんが実用上は問題ないと思います。



2013.8.1

Rubixレストのトラブルと対処



先日で報告したRUBIXレストに再びねじが緩むというトラブルが発生しました。

過去には起きていなかったトラブルだったのですが、同じセットで立て続けに発生しているので原因を検証。

とりあえずの対策を提示しました。

さて、今回も前回同様、⑤⑥のねじがシューティング中に緩み、アームの位置とリフト量が変わってしまいました。

このレストは今まで40-50#クラスのセットに装着していてもこのようなトラブルは発生していなかったのですが、今回のセットはピーク32-3ポンドと弱いセットです。

過去の経験から、パーツ類のねじ緩みはピークウェイトが弱いセットに多いことはわかっています。

低ポンドのセットは強いものよりもケーブルやストリングのテンションが弱いため、アロー発射時の衝撃による残留振動は強いものよりも長く残る傾向があります。

そのため、ねじ類が緩みやすくなるのは、弱いポンド数のリカーブボウでも経験しています。

(極端な例ではリムやハンドルの破損も発生)

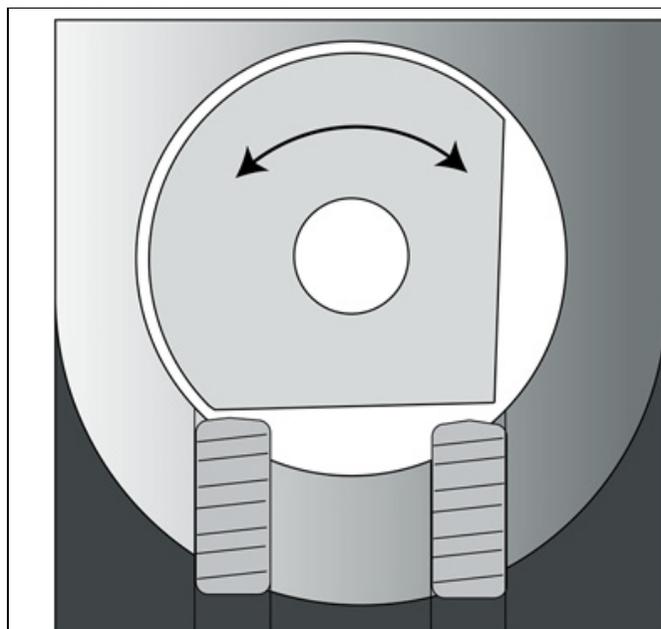
一見、ポンドが強いセットの方が衝撃が大きいためトラブルが発生しやすいような気がしますが、ストリングやケーブルのテンションが相対的に高いため、こと残留振動に関しては低ポンドのセットより小さいのです。



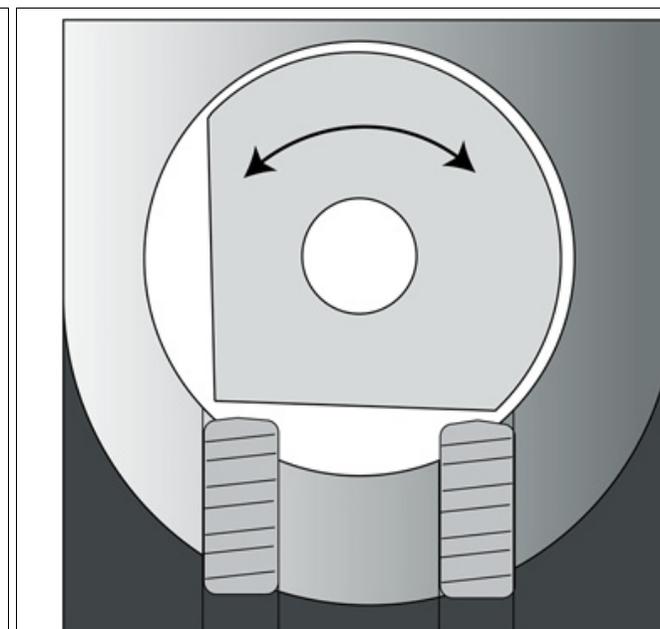
上の写真は、Rubixレストを分解した時の写真です。

右の矢印のパーツが、レストアームの軸でこれがゼンマイ型のスプリングと組み合わせられて回転することによりファールウェイの動作が成り立つのです。

下に簡単に図式します。



ドロイング前(レストアームダウン)



フルドロ(レストアームアップ)

図では左側のねじが、プレドロー時のレストの高さを調整するものです。

図の位置はファールアウェイモードの時の調整で、ブレードを使用する場合には、このねじを締めこむことによってブレードの角度を調整することが出来ます。

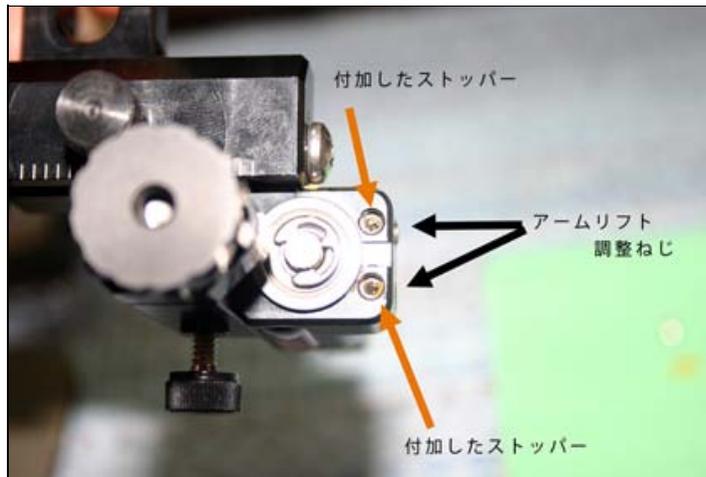
こちらは、フルドロー時のレスト軸の様子で、右のねじはアームのリフトアップの調整ねじです。

ドローイングのプロセス中、軸が回転するため、どちらかのねじにテンションがかかっていない時間が存在します。

残留振動によってアームがゆすられると、調整ねじと軸のストッパー面が接触しない時間が増加する結果、それぞれのねじにゆるみが発生するようです。

比較的強いポンド数では、残留振動が少ないためにこのような緩みが発生しにくいのだと思われませんが構造的には同様のトラブルが徐々に発生している可能性は否定できません。

そこで対策を考えました。



このレストは、幸い、調整ねじ用の穴の横にタッピングがあります。

メーカーが調整ねじのストッパー用に作っようですが、実射テストで緩みが発生しなかったのか、出荷時にはこのねじは付属していませんでした。

おそらくテストシューター達は**50-70**ポンド前後のセットでテストしていたためこのような緩みトラブルが発生しなかったため、不要と判断、コスト面も考慮した結果この横からのストッパーを省略したものと思われます。

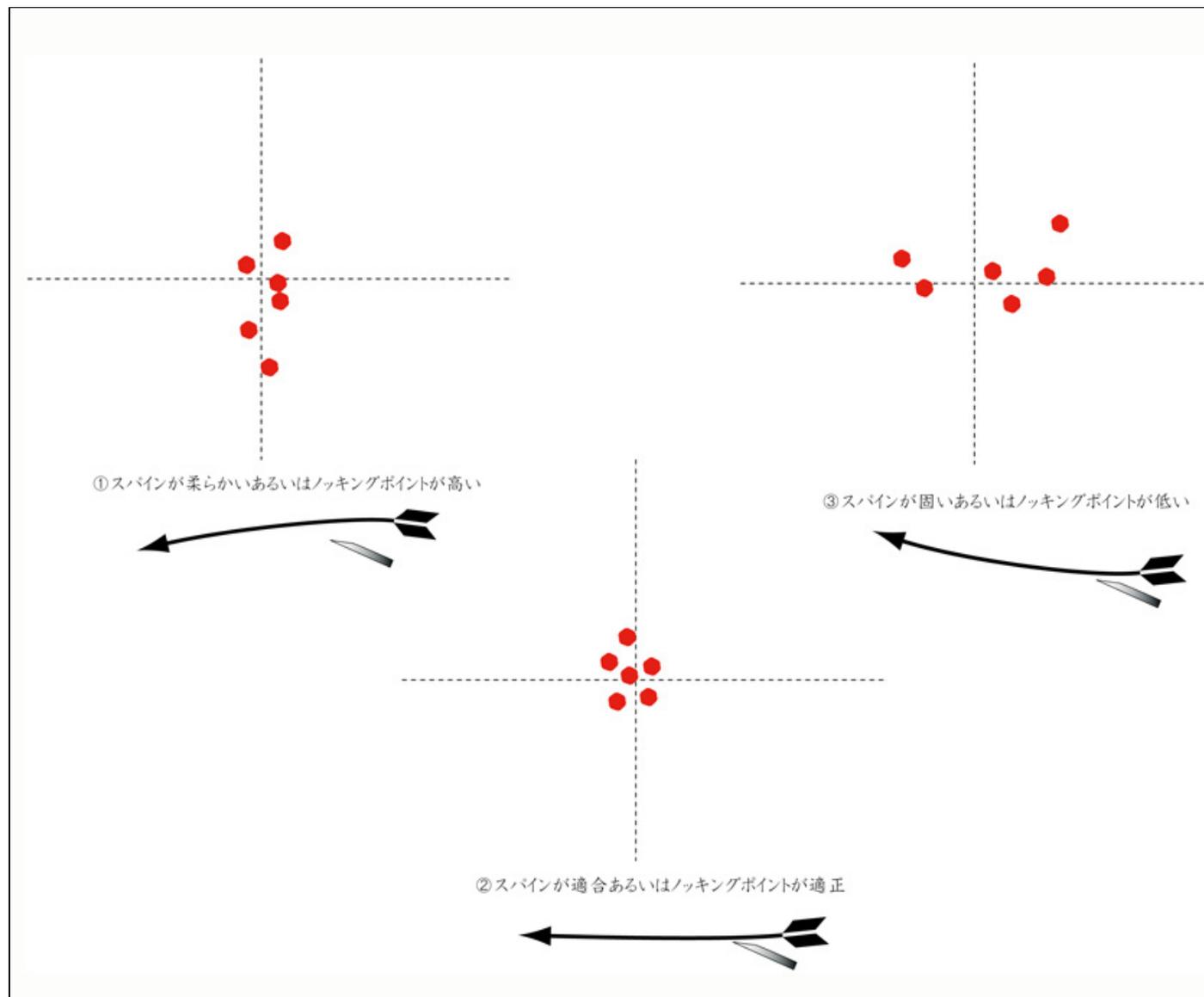
今回、対処としてこの横穴を利用し追加のねじで、調整ねじを横から抑え込むことにしました。

当ラボから購入された**RUBIX**レストに関しては無償にて追加ねじの供給を行いますのでご連絡ください。

なお、トラブルが発生したセットは、ストッパーを付加した上で、なおかつ微小な残留振動を少しでも排除・軽減するため、使用するスタビライザーをやや質量があるものに変更して試していただいています。

2013.7.27

グルーピングチェック



ペーパーチューンはコンパウンドボウのチューニングステップとしては最もオーソドックスなものですが、これはリカーブボウでのベアシャフトチューニングと同様、ベンツマークのカット痕(リカーブボウでいえばベアとフレッチングの一致)が実現できたらそれで完了ではないのです。

これでチューニング終了・完璧と思い込んでいるアーチャーが非常に非常に多いのです・・・

ペーパーチューンないしはベアシャフトチューニングはチューニングの終わり・最終目的ではなくスタート位置の選定方法なのです。

実際の競技での評価はスコアです。

つまりタイトなグルーピングがそのままスコアに繋がるのですが、多くのアーチャーは結果としての点数は憶えているものの、その時のグルーピングがどうだったか？ミスはどちらの方向に出ていたかについては認識していない方がほとんどです。

経験から言うと、ペーパーチューンでの結果と実際のスコア(グルーピング)の実現は必ずしも一致していません。(かなり近い位置ですが)

そのため、どうしても現場での実践的チューニングは必須となります。

グルーピングパターンとその原因と思われるものを図式にしました。

簡単に説明すると、

①のパターンでは多くの場合、スパインが柔らかすぎるかあるいはノッキングポイントが高すぎます。

この場合パターンの下に描かれているようなアローフライトが発生しているはずですが。

この環境では、ほんのわずかなミスもアローの失速につながりやすいため縦方向のグルーピングになりやすいのです。

対処方法は、ノッキングポイントを下げないしはレストを高くするです。

③では①と真逆の結果になります。

多くの方は横ブレの原因がアローの上向きのホップアップであると信じていないのですが、ノッキングポイントが低すぎる、

またはレストが高すぎる場合、グルーピングが横ブレしやすいのです。

おそらく、空力的な要素と重力の関係が絡み合っ矢の挙動が不安定になるためほんのわずかなストレスが横方向への方向のずれに結びつくものと考えられます。

対処方法は、ノッキングポイントを高くする、あるいはレストを下げるです。

そして、ノッキングポイントやスパインが適正であればタイトなグルーピング②が実現できるはずですが。

この状態ならアローは少々の外部的要素やストレスの影響は受けにくくなるはずですが。

信用できないという方は一度実験を試みてください。

ノッキングポイントを高くして行くとグルーピングはたてパターンになり、低くして行くとよこ広がりるはずですが。

試行錯誤して②のパターンになる位置を発見できればチューニングの第二ステップは終了です。

リカーブボウでも同様の傾向を示すはずですが、コンパウンドボウのように上下リムがケーブルでつながれていないため別の要素、(射角に伴うリムの重力影響やグリップのプレッシャーポイントの変化)が大きいのでコンパウンドボウほどには鮮明に結果が出にくいと考えています。

2013.7.26

☆Rubixレストオーバーホール後のペーパーチューンプロセス

先日の**Rubix**レストのオーバーホール、再取り付け後ペーパーチューンを試みました。

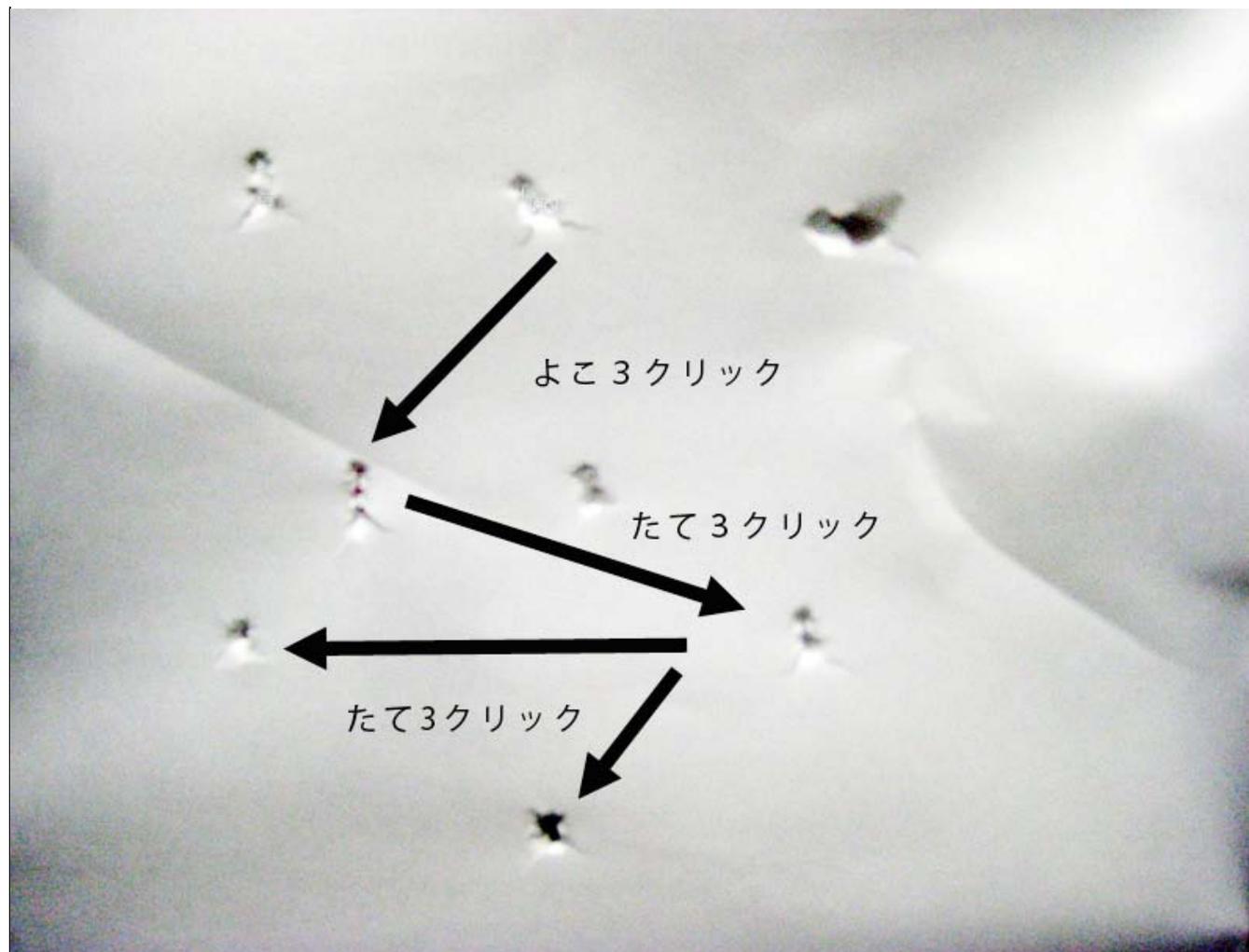
距離は約**1.8**メートルで実施。最初に横方向で3クリック、その後縦方向で3クリックを2回、つまり6クリック後ほぼベンツマークになりました。

Rubixレストの1クリック移動量は**0.0762mm**なので3クリックでほぼ**0.23mm**。

最終のレスト高調整では**0.46mm**移動でご覧のような結果です。

1クリックに対するアローの挙動はかなりセンシティブだと言えます。

これは想像以上でした。 とりあえずご報告を・・・



2013.7.25

America's Best Bowstrings製 Rubixレストの使用上の注意

Rubixレストの調整をしようとして、アームの調整ねじを取外したため内蔵のスプリングが内部で外れてしまうというトラブルが発生しました。

図のねじは、アームのリフトアップの角度等を調整するねじなのですが、同時に内部で使用されているゼンマイ型のスプリングを抑える役目があります。

通常は取り外し必要がないパーツなのですが、今回のケースでは、調整の結果であるねじ位置を緩んでいると勘違いして一旦2本のねじを取り去ってしまったようです。

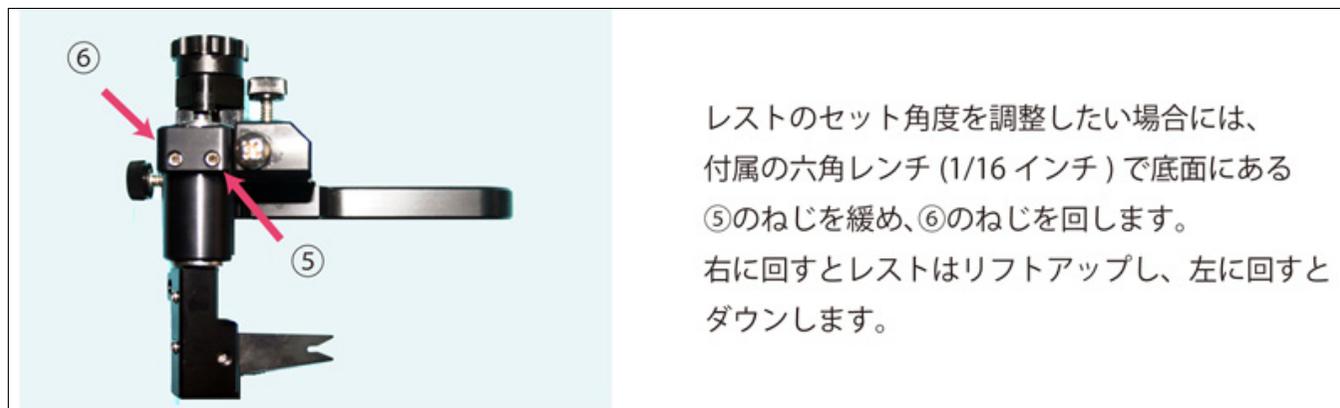
そのため、トルクテンションがかかっているスプリングがルーズになり、内部で止め穴から外れてしまいました。

それに気が付かずに、その状態のままねじを再度締め直しをされたようで、ルーズになったスプリングが内部で壁に接触する状態のままねじが締めこまれてしまったようです。

結果、動作がぎくしゃし倒れこみのタイミングまでめちゃくちゃになってしまったようで、アローの飛び出しまで影響が出たようです。

今回は大事には至りませんでした。場合によっては予期しないアローの動作を生みかねません。

この2本のねじは必要以上に締めこんだり、取り外したりしないようにご注意ください。



写真の矢印のスプリングは2か所のホールで支えられ、アームの倒れこみスピードをコントロールしています。

これがはずれてしまうと内部で障壁に接触し倒れこみを阻害します。

予期しないアローのと飛びだしの原因になりかねませんので、注意が必要です。

今回は幸い障壁にダメージがなく、傷も最小で済みました。

アローの動作がぎくしゃくしたり、おかしいなと思ったら当ラボにご相談ください。





今回の動作は、ファールアウェイモードでのトラブルでした。

バネレストとして使用する場合には、アローフライトには影響は与えませんが、余計な分解や、過剰な締め込み、改造等は絶対にされてください。

しばしば、好奇心で、商品を分解される方がいらっしゃいます。

その結果、調子がおかしくなったものをクレームとしての処理を要求されることが時折あります。

必要以上の分解や誤調整はメーカー・ディーラー保証の対象外となります。

その結果生じたトラブルに関しては販売サイドとして責任は負いかねます。

必要以上の分解作業等はいくまで自己責任で行っていただきますようお願いいたします。

2013.7.23

Bomar Hard Draw Stop

Bomarは昔から革新的なアクセサリーを発表・販売してきましたが最近はとんと静かになっていて目立ったものといえばケーブルスライダーくらいのものでした。

先日、顧客から「**Bomar**が**PSE**のカム用のハード・ドロー・ストッパーを発売開始した」というニュースがあり、取り寄せしてほしい旨の依頼がありました。

さっそく手配をかけ商品が到着したため、チェック作業を開始しました。

PSEのドローストッパーはラバーになっていて若干の弾力と奥行き感があるのですが、最近多くなってきたトリガーレスリリースアーチャーには、このファジーなフィーリングはマイナスになっているようです。

親指トリガーの私としてはもう少し奥行きがあっても良いような気がしているのですがこれも流れ・選択肢の一つだと思います。

現在テスト中の**Supra MAX**に取付を行い実射テストを行う予定ですが、とりあえずセッティングの手順をご紹介します。

この商品は**2カム**(ハイブリッドカムも含む)用で、別にワンカム用もあります。



取り付けは単純で、ラバー製のドローストッパーを外して交換するだけ。

幅が広い方が上カム用、狭い方が下カム用です。

カムの幅から生じるクリアランスの問題があるので上カム用を下カムに取り付けが出来ないので間違えにくいと思いますが、その逆は可能性があるため注意が必要です。

間違えて取り付けると、カムにダメージを与えたりケーブルがストッパーから脱線する可能性もあるためご注意ください。

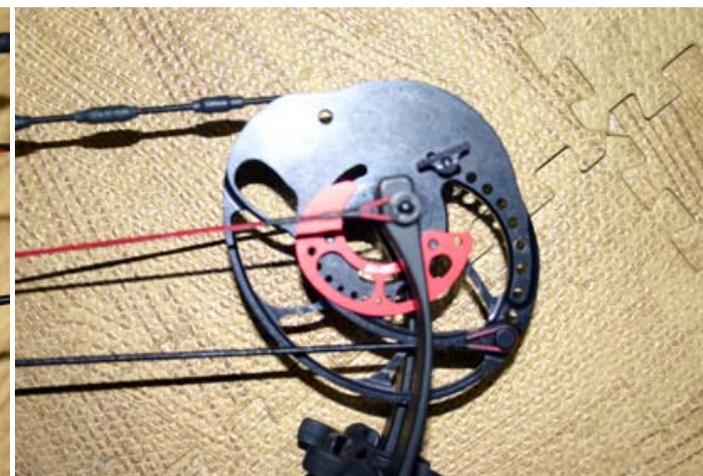
さて、取り付けが終わったら、パーツの平らな面がケーブルに面と接触するように角度を調整する必要があります。

説明書によると、最初に取り付けるときに止めねじを締めきらないでルーズにしておき、何回かフルドロースると(シュートではない!!)位置が収まるのでそれから完全な締め付けをして下さいとのこと。

しかし、実際にやってみると人間がフルドロースして位置収めをするのはストッパーが逆転したり、角度がついてケーブルを破断させたりする可能性や危険性も考えられるため、ドロ잉マシンのように安全にフルドロースを維持できる装置に保持して調整する必要があります。



こちらが、上カムに取り付けたところです。



こちららは下カム側。



フルドロー時の上カム。



フルドロー時の下カム。

現在**2**セットが手元にあり販売価格は**2,200**円の予定です。

2013.6.7

インドア仕様のアローのテスト

Elivane P2 6枚貼りのヴェインで**18**メートルをテストしました。

結果は良好、**18**メートルの距離で自分がシュートしたアローの軌跡が視認できました。

40#の弓に対して、重量**331**グレイン(**8.28gr/Lbs**)という組み合わせを考慮しても視認できたのにはびっくり!!

長い弓人生で**18**メートルのアローフライトが視認できたのは初めてかも知れません。
一応初速は**222fps**出てますから、時速換算で**242.5Km/h**<リカーブボウに比較すればはるかに高速です。

アローの精度と**6**枚ヴェインの威力、そして弓の返りの素直さがマッチしたためと思われます。

印象的としては**18**メートル後半でアローの伸びが感じられるほど・・・

自分だけの思い込みかと思っていたら、そばで見ていた仲間たちの印象・感想も全く同じでした。

「ゆっくりだけど矢が素直に伸びて行くのが見えた」そうです。

試しにほかのアーチャーにセットをシュートしてもらって観察してみると全く同じ感じでフライト。

これは使えそうです。

ところで、このアローヴェイン数が**6**枚と通常アローの単純倍なのでコストがその分余計にかかりますがそれ以上に満足度は高そうです。

尚、このアローインドアルールのように的辺り1本のシュートでないとヴェインのダメージが大きいと思います。感触的には50-30のショートレンジでもよい結果が出そうな気がしますが、複数アローをシュートするとコストとメンテナンスが大変になるので注意が必要です。

もっと過激なアイデアも準備してあるのですがそれは次のお楽しみということで・・・

ところで、スポーツセンターでSupra の新旧を並べて比較してみました。

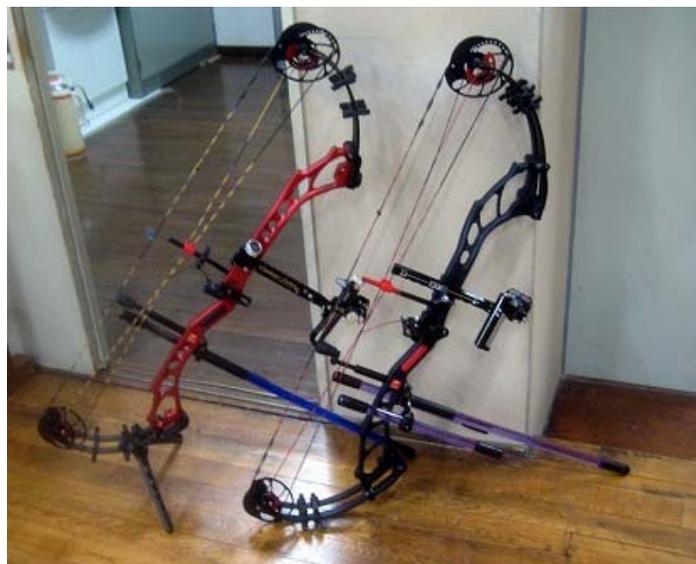
リムの変更に伴うハンドル形状の差異が歴然。

左が昨年までのSupra ME、右が2013年モデルのSupra MAXです。

おなじMEカム(個人的にはちょっと強引な印象があります)を使用しているにも関わらず、ドロフイーリングがマイルドで滑らかになったのはリムとセット方式が変わったことの影響が大だと思われます。

また、新しいFlexタイプのケーブルガイドもこの滑らかさの向上には、かなり寄与しているものと思われます。

このモデルはやはり今年の強力お勧め機種です。



2013.4.21

ビンテージボウのオーバーホール

ビンテージボウ、Ram Reflex Hunter TDに引き続きBear TDのオーバーホールを開始しました。

弓はBear社のマグネシウムTDハンドル(A)ハンドルでリムと組み合わせて66インチ41#のセットです。

このハンドルは未使用ですがリムはUsed。

長年寝かしていたので慎重にストリングを張り、しばらく寝かしておきます。

その後ドロフイーグマシーンで、少しずつ引いてな



じませます。

このころのビンテージものを突然フルドロローして貴重なセットを折損させたアーチャーを知っていますので慎重に対応を・・・

オーバーホールが終わったら希望者にお譲りする予定です。

ただし、この手のビンテージものの取扱いを理解している方に限りませんが。

さて、リムは有名なPAA(プロアーチャー協会)のプロアーチャーでWhite Knightの別称を持つVictor Bergerの肝いりによるもの。

Bear社のFascorリムと同様スペシャルシリーズのもので。

オリジナルのベア社のリムと比較してどのような違いがあるかは定かではありませんが、以前引いた感触では奥行き感が異なっていましたので、心材やファイバーの選定、リカーブのアールなどが異なっていたのかもしれない。

手元にfascorリム2本があるのですがポンド数がかなり異なるためフィーリングの違いまで判別できていません。

ところで、Victor Bergerは現在のクッションプランジャーの前身のBergerボタンの発明者です。

Vivtor Bergerに関しては[こちら](#)と[こちら](#)



2013.4.21



Supra MAX(40#)の実射テストを開始しました。

ドローフィーリングは2012年モデルであるSupra MEよりややマイルドになった印象があります。

これは、リムが898から961にグレードがアップされリムポケットも変更された影響があるのだと思います。

さて、ここしばらくは練習場所が千代田のスポーツセンターのみになりそうなので実射は18mと30mに限られるためこのセットをインドア仕様としてテストをしてゆく予定でいます。

弓のセッティングは大きく変わらないのですが、アローはインドア用に太めのものをと考えています。

使用するセットが40#と非力なため、FatboyやVAPのVX-23は使いたいのはやまやまなのですが、現実的な選択ではありません。

ドローレングス26-26.1/2インチの私として許容されるアローレングスはせいぜいAMOで29インチ±まで。

スパイン的には500-520前後が限界ということになります。

ということで最も有力なのがPSE扱いのCarbon Force Radial X Weave Pro 100.

このシャフトは、スパイン520なので今回のセットでぎりぎり硬めといった感じです。

多少のミスマッチはフレッチングによる修正力で何とかできると考えています。

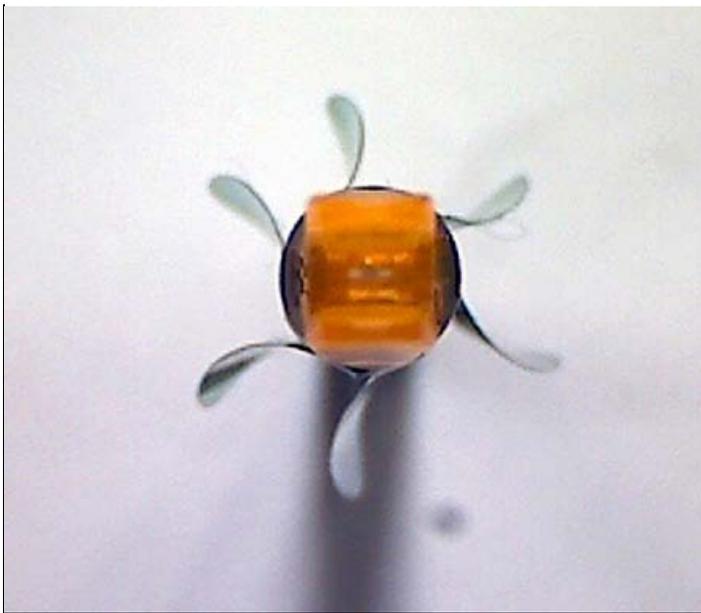
さて、修正力が大きいフレッチングという事で候補に挙がっているのが、Elivane IndoorShark4なのですが、現在入手可能なのは右用のみです。

ベアシャフトが左回り傾向にある私としては左ピッチを使いたいのでちょっと悩んだのですが、[この記事](#)を思い出し小型のもの多数貼りに挑戦することにしました。

この記事で使用されているのは5枚貼りなのですが、製作の簡易性を考慮して6枚貼りで行くことにしました。

左の写真はテスト貼りをしたものです。

物理的に考えると3枚とか5枚のように奇数貼りのほう



が安定した平面を作れるということで理想的なのですが、今回は妥協することにしました。

そこで今回選んだのが、強度的にも満足しているEliVaneのParabolic2です。

これなら現在左ピッチのものが入手可能です。

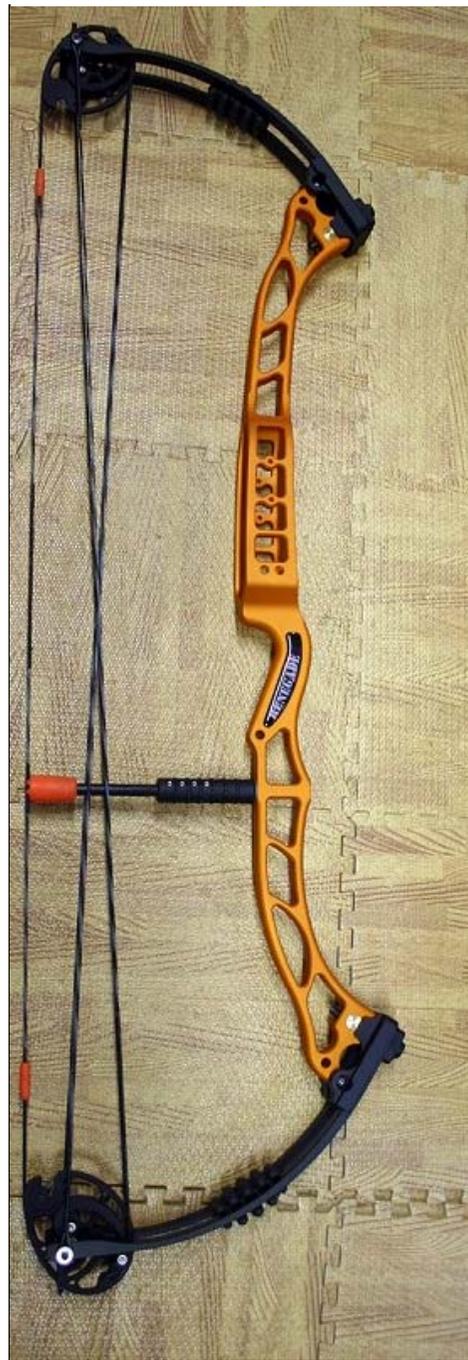
ということで手配をかけて準備に入りました。

(注)ヴェインの前後を間違えて貼ったためこの写真ではレイアウトが逆になっています。
試用テストはきちんと方向を出したのを使います。

2013.4.13

2013年4月1日入荷(カスタムオーダーおよびサンプル入荷)

こちらは先ごろ入荷したDST36より軸間が長めのDST40です。



お客様のカスタムオーダーとして入荷しました。
ドローリングスは**AMO27.1/2**インチで**60#**の仕様。
きれいなオレンジ色です。

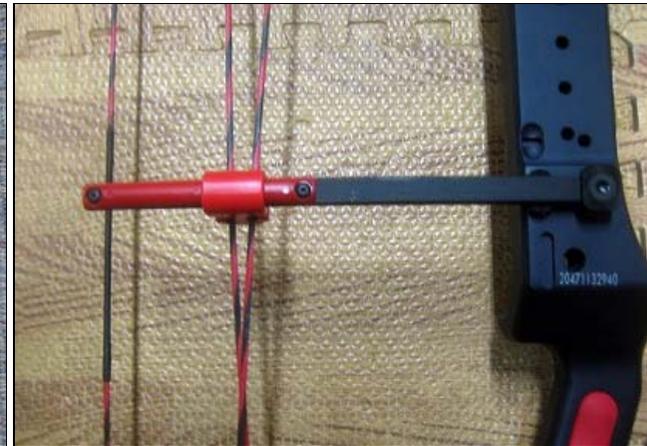
下写真左側はPSEの新しいケーブルガイドシステム**Flex Slide**の保守パーツ(右写真のレッドの部分)です。
右はリストタイプのドローチェックツールで、**Can't Fire**のリストバージョンといったところです。

ベテラン・新人を問わず通常リリーサーで素引き(アローをつがえずにストリングを引く)をされるアーチャーがまだに多いようです。

引き戻しの際に、暴発するケースも非常に多いので試引きが必要な時はこの手のツールの使用は必須です。

また、フィンガーでドローする方も多いのですが、レットオフ率が高く、カムのサイズも大きい現在のCPでは引き戻しの際にストリングを捻じりストリングトラックからストリングを外してしまうトラブルも多発しています。

ご注意ください。



こちらは、America's Best Bowstringsにカスタムオーダーしてあったフレミッシュストリングを張ったHoyt Ram Reflex Hunter TD。

58インチのD97でオーダーしたのですがそのまま張ると9.1/4インチのプレースハイト。

しかし、フレミッシュはどうしても伸びるのでしばらく張り込み。その後調整予定です。

目標値は8.3/4インチ前後です。



2013.4.1

Supra MAXのセットアップ



2013年モデルのSupra MAXをセットアップしてみました。

セッティング26インチ・40#のセットで、目標としてインドア用を目指しています。

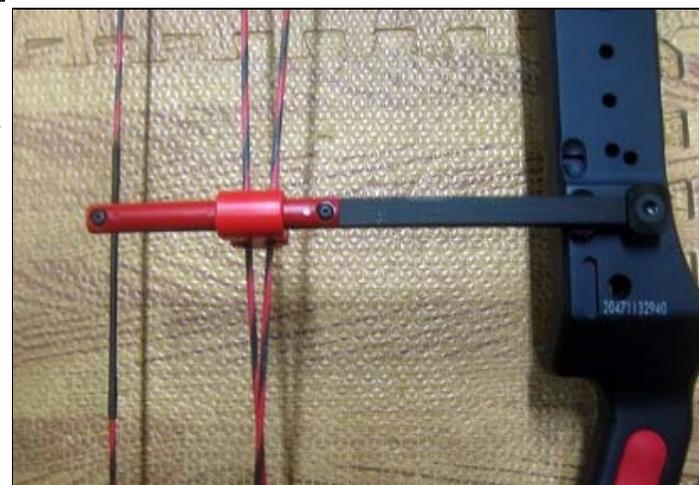
アローも準備中

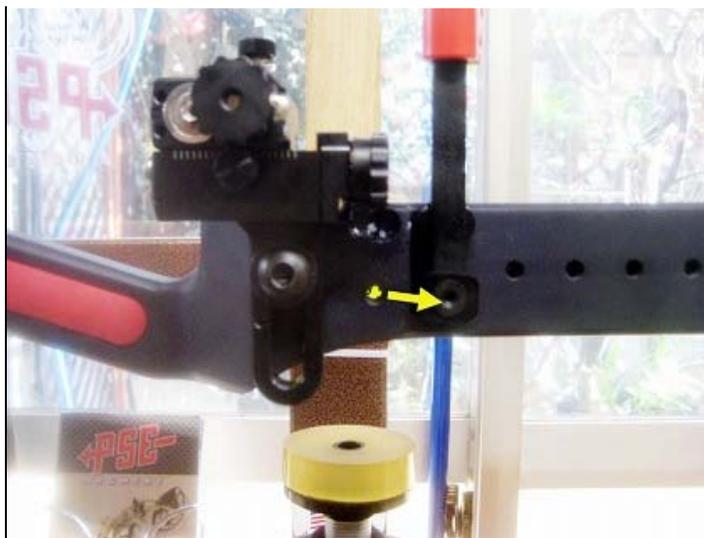
レストはABBのRubixレストをファールアウェイ仕様で、
サイトはCBEのものでテスト/検証用として持ち回りで使っているものを流用。

さて、以前のインプレッションで新しいFlex Slideをご紹介しましたが、何故ポジションが2か所あるのか疑問でした。

メーカー出荷段階ではよりレストに近いところに取り付けてあります。

効率はこちらの方が良いはずなのになぜ2か所に取り付け用ホールがという疑問はこの後わかりました。





当ラボ一番の推奨品でもあるAmerica's Best Bowstrings製のRubixレストを取り付けようとしたところ、調整ノブとケーブルガイドが干渉しあって取り付けが出来ませんでした。

結局、ケーブル目ガイドの位置を上に移動させてクリア。

このために2か所に取付ホールを用意したということのようです。

さて、レスト、サイトを取り付けでセンター調整をしようとして気が付きました。

レストはアームが右に寄り、サイトは同じくスコープが右寄り.....

不思議に思ってハンドルライザーの厚みを計測したところStilettoでは17.8mmだった肉厚が20.3mmと2.5mm厚くなっていました。

強度を考慮してハンドルを肉厚にしたようです。

結局サイトハサイトバーとエクステンションの取り付けパーツの方向替えでクリア。

レストは左寄せしてぎりぎりでした。

アローが準備できたらシュートテストをしてみる予定です。



往年の銘機のレストア/オーバーホール

私の手元に来てから**10**数年押入れの天袋で寝ていた4ホイールコンパウンドボウのレストア/オーバーホールを開始しました。

機種は**Carroll**の4ホイールモデルです。

私がコンパウンドボウに転向した時はすでに2ホイール(**2**カムではない)の時代だったので4ホイールタイプはシュートを数回経験したのみです。

コレクションとして**Allen**のプロトタイプのモデル(これは怖いのでシュートしていません)、**Bear**の4ホイール(フィンガーシュート用としてアレンジしてもらった)は所有していましたが調整するのは今回が初めて。

というわけで、まずストリングとケーブルの取り回しから確認。

ハンドルに取り付けられたラチェットでケーブルを巻き上げて、カムのシンクロやリムテンション等を調整するのは理解しているものの調整のステップは曖昧なままで挑戦。

何とか破損させずに形にはできました。

ラチェットで、カムのシンクロ調整できるところまで確認できたので小休止。

気になるのはスチールワイヤーの被膜がところどころ破れていたことですがこれはどうしようもありません。

まあ、さびなどは出ていないのでよしとして作業を進めるつもりでいます。



さて、この弓のスペックはシールが貼布されていたのでそのまま写真撮りました。

私にちょうど良いスペックです。

もともと、データ類は一切手元にないので、ブレースハイト等々をどうするかはこれから検討することになります。

最終的にシュートできるようにしたいと考えていますが・・・



2013.3.19

America's Best Bowstrings Rubix Rest のマイナーチェンジ



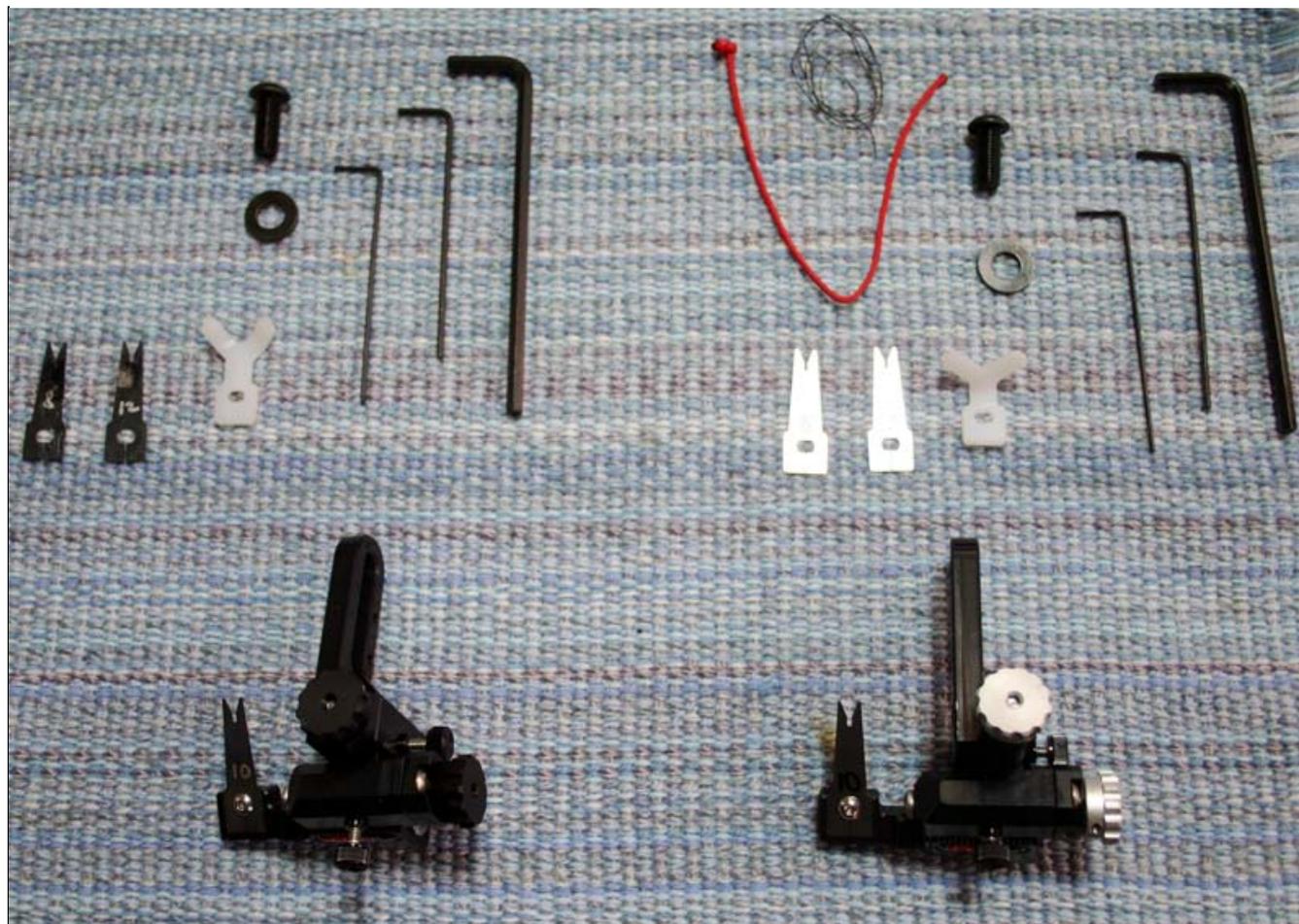
America's Best Bowstrings製の高精度レストRubixのマイナーチェンジ版が到着しました。

写真右が従前タイプ、右が新しいものです。

本体には大きな変更がなく、追加されたのは右の矢印部分のストッパーねじだけのようです。

従前タイプでも特にトラブルは発生していないのですが、誤ってクリックを動かしてしまい調整がずれてしまうことを防止するため付加されたものと思われます。

また、上下/左右の調整用ノブはシルバーにカラーチェンジされています。



基本的なものはほとんど変わってはいませんが、セットに付属のパーツは増えています。

左が以前のセット、右が新しいタイプの付属パーツです。

新たに追加されたのがファールアウェイ用のセンサーコードとケーブルにコードを取り付ける際の糸です。

[セッティング用のステップマニュアル](#)も同封されています。

また、3種類ついてくるブレードはスチールからステンレスに変更されています。

2013.3.18

ビンテージボウのレストア(RAMBO)



長い間に、コレクションボウが増えすぎて置き場所が無くなってきました。

埃をかぶっている弓たちも可哀そうだし、少し整理をしないでほしい鴨居などに吊るしてあった弓達を点検しているうちにオーバーホールを思い立ちました。

寝室の部屋の鴨居には、一番最初のコンパウンドボウであるHOYTのRAMBOシリーズCPが2本引っかけてありました。

1本はCPを引退した仲間からの預かりもの、もう1本は譲っていただいたものです。

実は私自身が購入したRAMBO CPがリカーブボウに変身した姿で押入れに眠っていましたので全部で3セット手元がありました。

これらは、左の写真でスタローンが使っているRAM BOWとはハンドルは共通なのですが、リムもカムも別物です。

よくオークションでRAMBOの使った弓というお題目でCPが出品されていますが本当に使ったモデルは写真のOMEGAホイール装着・ノンケーブルガイドのモデルです。

残念ながらオークションに出品されているものにRAMBOは存在しませんでした。

RAMBOで使用された弓は映画用にHOYT/EASTONがカスタム制作した(故アール・ホイットがかなりかかわったようです)ものなのですが、その後RAMBOの名を冠したモデルが、おそらくはライセンスの関係、1年間だけカタログに登場していました。

それらは、ハンドルは映画仕様ものと同じですが、リムもカムも別物のケーブルガイドが使用されたモデルたちでした。

右のように、RAMBOと印刷されたリムは1年後カタログから消え失せましたが、シリーズはRAM ○○というネーミングでその後長い間発売されていました。

さて、このシリーズ、設計にかかわったアール・ホイットの考案らしいのですがリムを交換するとリカーブボウに変身するという、コンパチモデルでした。



左上か、リムを交換して変身後のRAMBOでネーミングはRAM REFLEX HUNTER T/D(AM062インチ)。

下がオリジナルのRAMBO CPです。

さて、RAMシリーズ用のリムは2種類あって、ひとつはHOYT製のハンターリム、そしてビギナー用ローコストリムのRAM REFLEX TARGETでした。

後者はMADE IN KOREAでしたが横方向に強いねじれにくい優秀で頑丈なリムで私の所属の千代田ア協では生き残りがまだ活躍しています。

どこがOEM供給していたかは定かではありませんが、当然あったHOYTからの技術指導が現在の韓国製のリカーブボウに反映されているのではと考えています。

さて、このRAMBO コンシューマモデルは私のCPの1号機でもあったのですが、カモパターンのハンドル/リムに別のカラーのスタビライザー等を使用するのは嫌だったので、サイトハ無理だったにしてもスタビライザーだけでもと、カラーをカモパターンに塗り替えて使っていました。

黒のマットスプレー・マットクリアスプレー・茶・グリーンの水溶性ペイントを購入してきて黒いスタビライザーを塗り替え。

黒のマットスプレーで塗装し、ベースカラーにし、茶とグリーンの水溶性ペイントをぼろ布で適当に叩くようにしてパターン作り。

もともとカモパターンなのでムラはむしろ効果的でした。仕上げに艶消しのクリアーをかけて完了。

ウェイトもシルバーは面白くないのでマットブラックに塗装しなおして使っていました。





上がレストア中のRAMBO CP。

下がリカーブボウに変身されたRAM REFLEX HUNTERです。

リカーブボウの方はレストアといってもやることはないの
で、ストリングだけを手配。

こちらはAmerica's Best Bowstringsにフレミッシュでオー
ダーを×予定です。

1本目、知り合いより預かっているものはオーバーホール
し、手持ちのサイト(懐かしのバイメ254サイ
ト)とChek-Itのレベル付ダウンピンサイト、レストはこの
時点では検討中でした。

最終的にはバーナーレスト(初期のファールアウェイレス
ト)を装備することにしましたが・・・



レストに関しては、最近のものを取り付けも考えまし
たが、当時のマグネシウムハンドルは、アロークリアランス
が小さく、センターショットが真ん中に取りにくいので断
念。

現在は当たり前になっているCP用のヴェインY字セットあ



るいは逆Y次セットではヴェインがハンドルにヒットしてしまうしへたするとレストアームがハンドルにぶつかってしまいます。

ということで1台だけ復活させてあったバーナーレストを装備することにしました。

さて、このモデルに使えるようなレストはバーナーレストの他に、当時主流だったスプリングレストがあります。

スプリングはヴェインが接触しないように先端をカットするのですが切りすぎるとアローがドロウ中に落ちやすくなったりとなかなかデリケートな世界でした。

リリーサーシュートではパラドックスが発生しにくいのでヴェインをクリアさせるために、アローアラインメントをセンターよりインにセットし強制的にパラドックスを発生させるなど今では考えられない手法を採用していました。

ただ、このやり方、リカーブボウにも応用して固すぎるスパインのアローを無理やり飛ばすという荒業も使ったりしていましたが。

スプリングレストは上下のパラドックスもきれいに補正してくれるのですが、スプリングの磨滅が早いのでしょっちゅう交換が必要です。

バーナーの方は、落ちるタイミングがデリケートで結構苦労します。

スライドウェイトにコインや鉛などを貼ってスライドタイミングにディレイを発生させようという処方もありました。

また、ノイズも大きいためいろいろと工夫が必要です。

この時代のモデルにつけるので無難なのはバーナーの方ですが、回帰という意味ではスプリングレストかな・・・

写真右はバーナーレストで、レストについているアームはリリーサー

用、下3個はフィンガーリリース用でワイヤーの太さが異なります。(スパインに合わせて組み替える) 左はスプリングレストで上は古いタイプ、下はクッションプランジャーと組み合わせた比較的后期のもの。



近いうちにどちらか1本をビンテージモデルとして放出することを考えているのですがどちらにするかは未定です。

どちらのセットにしてもスチールワイヤケーブル/ダクロンストリング+ティアドロップフックのモデルなので最近の軽量のカーボンアローをシュートするとストリングを引っかけてあるティアドロップフックが抜けてしまいま

ということで組みあがった2本のRAMBO CPです。

結局、後ろの30インチスタビ付のセットはバーナーレストを、前方のハンティングスタビが付いたものにはスプリングレストを組み込みました。

さて、ドローレングスとピークを計測。

後ろはカムのケーブルポジションセンターで27インチ50#でしたが、手前のものはカムが一回り大きいので28インチ60#になっています。

そこで、ケーブルセットをショートにして27インチ50#に変更。

そう、このころのモデルはドローレングスを長くするとポンド数があがり、短くすると下がるのです。

さて、後ろの1本(カムが黒い方)は極力純正品で仕上げましたが、手前の1本(カムがシルバー)の方は規格が異なるもの等を流用しています。

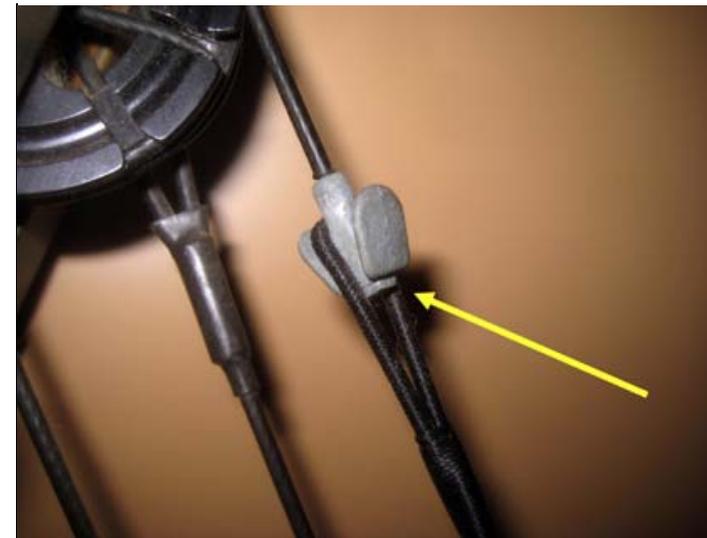
す。

50#、27インチを考えると**XX75 2114**クラスの重量級アローが必要になると思います。

また、ダクロンを**FF**のような高分子ファイバーのストリングに換えただけで同様のトラブルが発生するします。

これは経験済です。

その辺りを理解できる方にしか譲れませんね・・・



2013.3.2

Phenom MEとSupra MAXの比較テスト

PSEの2013年モデルのうちターゲットモデルに分類される**Phenom**と**Supra MAX**の簡単な比較テストをやってみました。

テストはどちらも**26インチ**ドロースセットにしてフルドロース時における上カム/ハンドル/下カムの垂直度をチェックしてみました。

こちらはローコストモデルの**Phenom ME**。

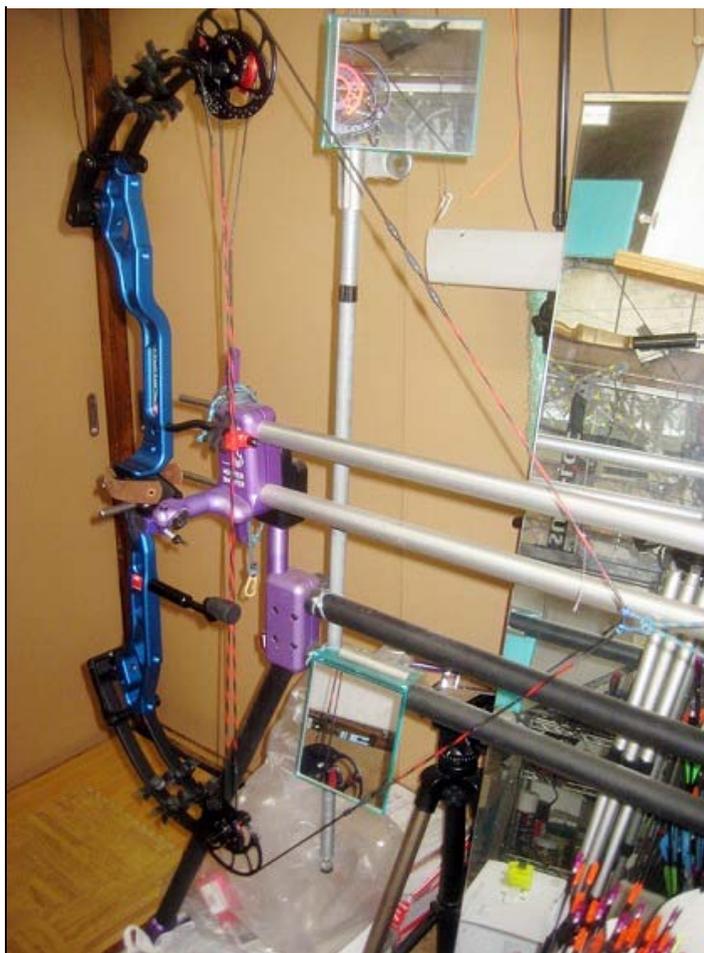
メーカー出荷の状態からモジュールの一チェンジでドロースングスの変更だけを行いました。

結果、ハンドルが直立の状態、上カム、下カムどちらもほぼ垂直になっています。

2012年までのモデルではメーカー出荷状態では、特に下カムは、垂直が出ていなかったのを考えるとかなりの進歩といえるかもしれません。

ローコストモデルでここまで煮詰めた状態で出荷されるというのは歓迎です。

セッティング的には文句のつけようもありません



が、ローコスト版である**Phenom ME**ではストリング/ケーブルは**PSE**の通常バージョンが装着されています。

これも悪くはないのですがやはりスペシャルバージョンの**America's Best Bowstrings**に比較すると不安定な印象は残ります。

もし、このモデルを使われるのであれば、最初はともかく、ストリング/ケーブルのローテーション時期には**ABB**のカスタムストリングに交換されることをお勧めします。

こちらはグレードがアップされた**Supra MAX**。

こちらも見事に上・下カムのフルドロ時の垂直が出ています。2012年のモデルまではヨークで調整可能な上カムはともかくとして、下カムの垂直度に関しては当ラボで独自のチューニングをしなくてはならなかったのですが、メーカー出荷の段階でクリアされているのは見事です。

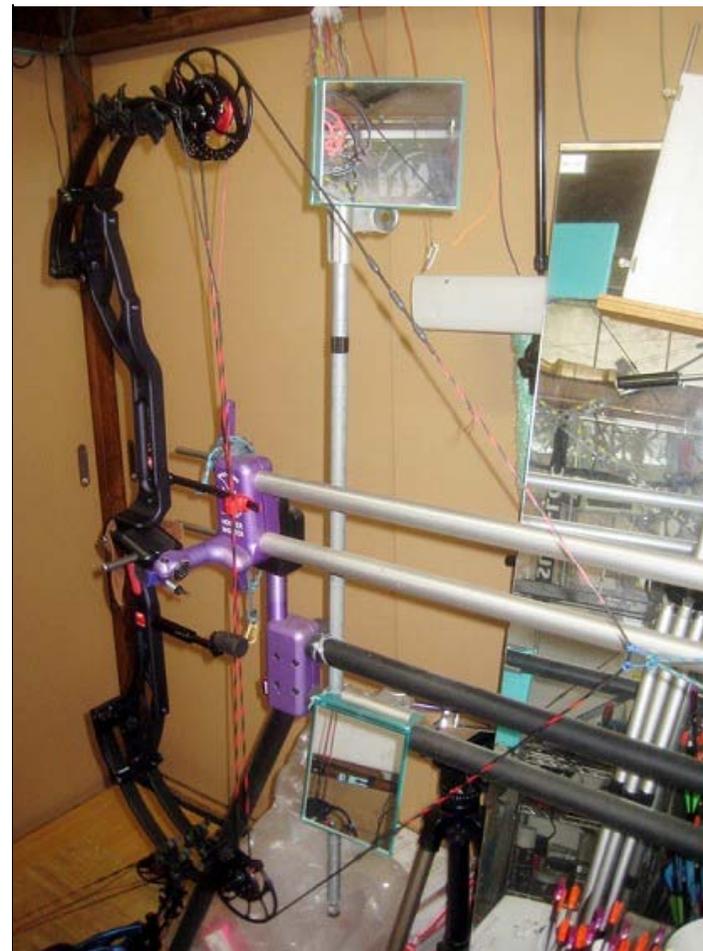
2013年モデルでは、カムの傾き(リーン)に関してかなり細やかに調整してきた結果とも言えそうです。

ここ数年、カムリーンへの対応策としていろいろなアイデアがいろいろなアクセサリーやチューニングメソッドとして提案されてくるようになっていたのでそれらに呈するPSEの回答といっても良いかもしれません。

さて、今年の出荷から、少なくとも当ラボで入手したロットに関しては、カムのリーンバランスを取るためのセッティングレイアウトが細かい点で変化してきています。

昨年と違うチューニングレイアウトになってきていますが、標準的な対応かロットへの個別対応化はいまのところ不明です。

こきづづきこの点に関してはデータを蓄積してゆく予定でいます。



さて、今年のパセの上位機種を目玉ともいえる新設計のFlex Cable Slideですが、これはドローイングの際のケーブルテンションに起因するカムのリーンの軽減策の一つです。

ケーブルガイドはある意味必要悪であると言えます。

カムのリーンやハンドルライザーへの負荷、そしてそれに起因するライザーの金属疲労等々は悪の部分です。しかし、一方ではミスショットなどでストリングが荒れたときケーブルガイドがある程度弓の振動をダンプしてくれているという副次的な効果もあるのです。

これはかなり大きなメリットです。

当ラボでも取り扱いを開始したDSTやBowmanのウェーデルカムのように全くないシュートスルーケーブル・ノンケーブルガイドのモデルではシューターミスカバーしきれないケースも発生します。

私自身もBowmanのシュートスルー、TSSのノンケーブルガイド、そしてDSTのあるシンメトリーのシュートスルーモデルなどをシュートして印象として残ったものです。

これらのタイプはきれいにシュートすればそれは見事に真っ直ぐできれいな弾道を描いてアローを飛ばしてくれるのですが、ミスに対するスイートスポット的観点から見ると、かなり狭くなります。

これらのモデルは安定したシュート技術を持つアーチャー向けといっても良いと思います。

自動車の世界でいう**F1**を代表とするハイテクカーとコンシューマモデルの違いに近いものがあると思います。

この傾向は**CPR**システムなどのケーブルガイドのテジョン対応のシステムにもにも言えるようで、カムのリーンは減少するものの大きなミスはカバーしきれないのではという意見も出始めているそうです。

(この件は未確認情報です。念のため)

きれいなシュートをできればこれらのモデルは安定したアローフライトを実現してくれますが、ミスの度合いが大きいと・・・なのです。さて、話題がずれましたが写真は**Supra MAX**での**Flex Cable Slider**のプレドローとフルドローでの曲がり具合です。

このケーブルガイドはカーボンのバーでできているため、繰り返による変化は小さく理想的なのですが磨滅に弱いためケーブルスライダーの接触部分は樹脂のカバーを挟み込む格好になっています。

さて、このセット**2012**年以前のモデルや、**MAX**の名称がついていない従来タイプのケーブルが意図とは互換性はなさそうですが、なんとか工夫してみようと考えています。

ところで、このケーブルガイドの着脱にはスターレンチ(のヘックスローブ**T20**)が必要です。



2013.2.17

PSEの2013年モデルSupra MAX



2012年まではローコストターゲットモデルという位置づけでしたが、2013年からハイエンドレベルのターゲットモデルに変身しました。

ターゲット用ローコストモデルとしてPhenom MEが新たに発表されています。

リムも898から上位機種に使用されている961リムに変更され、ケーブルガイドもカーボンバーを使用したFlex Cable Slideが採用されています。

ストリングも上位機種と同じAmerica's Best Bowstringsのものが標準装備となっています。

今回入荷したのは40#モデルですが、いままでチューンチャートに表記されていなかったNo.15番の961リムが装着されていました。

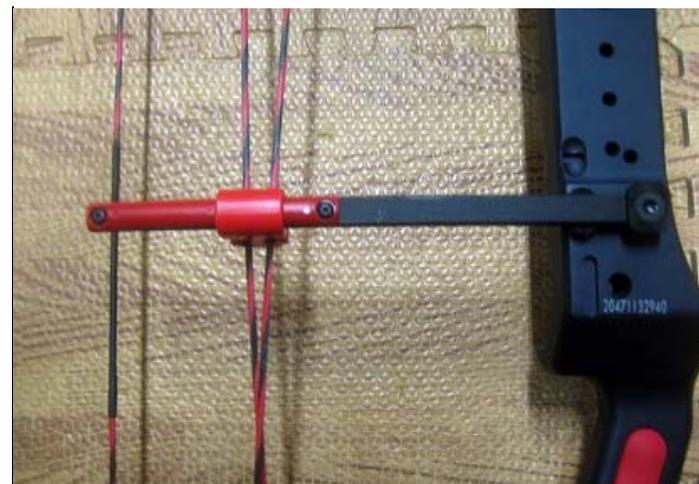
尚、価格は現在未定です。

新しい Flex Cable Slideはカーボンバーを利用しケーブルに

ストレスがかかってゆくにつれて内側にベントされるためカムに傾き(リーン)が発生しにくくなっています。

カーボンバーはそのままでは、すり減ってしまうので、樹脂のパーツと組合わされています。

尚、この新しいケーブルガイドは現時点では従来のタイプと互換性はないようで取り付け・取り外しにはスターレンチT20が必要です。



リムが898から961に変更されたためハンドルとリム受けも2012年モデルとは異なった形状になりました。方式は最上位機種であるDomonatorと共通のようです。

ターゲットモデルの新旧、Supra MAXとPhenom MEの比較テストを行う予定です。

レポートはまた後日

2013.2.27

PSEコンパウンドボウリムおよびストリング/ケーブルスペック

PSEより2013年モデルのチューンチャートが一部の機種を除き発表になりました。

2012年よりマイナーチェンジされた機種

Dominatir Pro ME → Dominator MAX**Dominator 3D → Dominator 3D MAX****Supra ME → Supra MAX**

以上の機種は各ポンドに対応するリムの種類/コード、ストリング/ケーブルのコンビネーションは2013年モデルにも共通です。

Chaos FC → Chaos AD

以上はリムに関しては現時点では未発表ですが、幸いなことにストリング/ケーブルは共通です。

尚、従来リムは、**898・961**の2種類がメインでしたが新たに**861**という新しいタイプが**Phenom**等に採用されています。

新しい**861**リムは**Phenom Hummer Drive Prophecy Sinister Brute-X**に装着されています。

各リムの違いは、リムの受け支点とリムボルトの起点からの距離が**961>861>898**になっているようでこれが長いほど「てこの原理」で動作がパワフルになると考えられます。

現在、確認していませんが**898・861・961**リムはリムポケットの形状等から考えて相互互換性はないと考えられます。



さて、当ラボではテスト用として**Supra MAX 40#**仕様を発注してありますが現在未着です。

現在発表されているチューンチャートでは、**Supra MAX**は**50-70#**の範囲と適用リムが発表されていますが**40#**には対応リムが表記されていません。

Supra MAXに使用されている**961**リムは**17・18・20・21・23・25・28・29・30**が存在しているのですが**Supra MAX**では**50#**対応が、リムコード**18**になっています。

単純に考えて現在一番弱い**17**番リムを適用すると、**40#**以上になる可能性があるので新しく**15-16**番リムを製造しているのか、それとも**17**番で何とかするつもりかは不明です。

この部分に関しては判明次第お知らせします。

2013.2.7

ボウプレス周りの工夫

以前から考えていたのですが、先の記事にもある通りボウプレスでストリング等をルーズにする際には、ストリングを上引き上げるようにしておかないと、意図していないのに、ケーブル類がカムのフックから外れたり、ケーブルトラックから知らぬ間に逸脱してしまうことがあります。

これは大きなトラブルにつながりやすいので注意が必要です。

従来も、**ABB**の指摘のようにストリングを上引き上げるような動作を組み込みながら作業はしてきましたが、ほんのわずみや油断からトラックはずれなどが発生し怖い思いを何度もしてきました。

仲間からのアドバイスなどもあり、ストリングを上引き上げるような装置の必要を感じていましたが、これをきっかけに対策に着手することにしました。

当初、作業場の天井にフックを取り付けそこからゴムバンドでもと考えていたのですが、おおげさになることと、作業場である我が家の家屋の貧弱さ(昭和39年・東京オリンピックの年に建築)による天井の強度を考え断念。

別の方法をとることにしました。

あくまで試作なので、工作とコストは最小にということで、手元にある材料を物色。

結局テンション装置を上から吊るすためのポールは押入れにあった端材木材を使用することにしました。

当初はボウプレスのフレームに穴をあけてボルトナットでも考えたのですが、それほどテンションがかかる装置ではないはずなのです。

極力、簡易に、そして失敗した時にすぐに原状復帰できるようにということで両面テープと結束バンドで木材をポールとしてフレームに括り付けました。

強度的にはこれで十分なようです。



さて、ポールが出来たので今度は、ストリングを引っ張る
起点となるアームの材料を物色。

当初ボルト/ナットを考えたのですが長さが足らず断念。

押入れの奥からほかの工作の予備パーツとして寝かして
あった折り畳み式の棚受けを発見。

アームの長さもぴったりですし邪魔になるようなら普段は
折りたたんでもおけます。

これに、ヒートンを蝶ナットで止め、ここに伸縮性のある
バンドを引っかけます。

当初はゴムバンドを考えたのですが、へたりやすく切れやすいうえ、ちょうど良いサイズも見つからなかったので取りやめ。

いろいろと物色した結果、手元にあったスプリングアーム(Yシャツなどの袖止め、別用途で100円ショップで購入してあった)を2個連結して先にS字フックを取り付けることに。

これをヒートンで棚受けから吊るします。



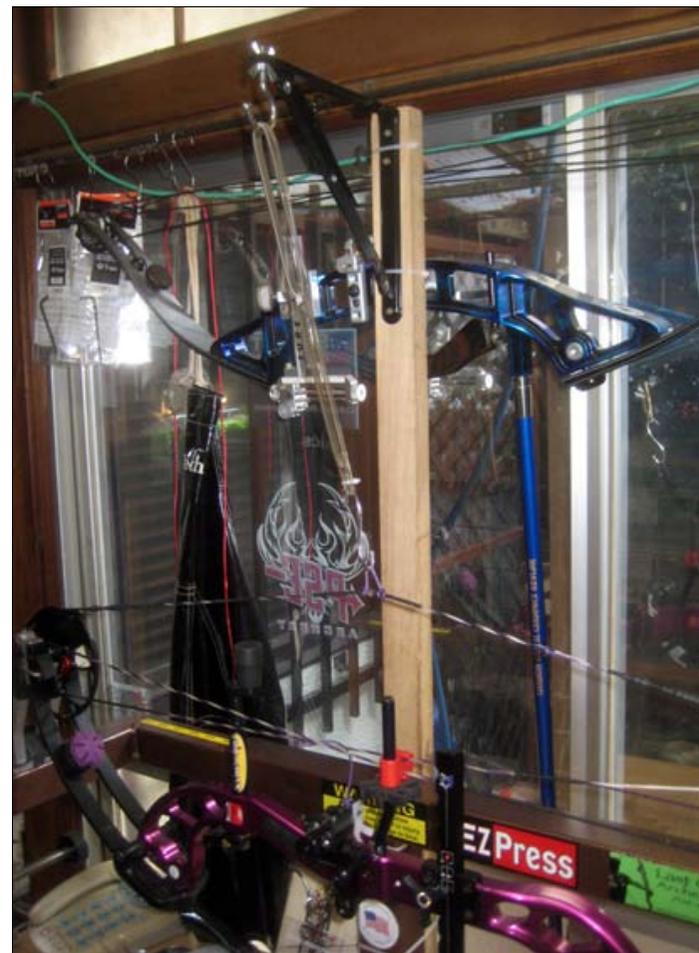
左の写真が完成図ですが、周りをごちゃごちゃになっている関係でわかりにくいと思いますが、全体のイメージはこんな感じです。

さて、実際にボウプレスに弓をセットし、Dループにスプリングアームの先に取り付けたS字フックを引っかけてみます。

その後、ボウプレスでリムにプレッシャーをかけながらストリングをルーズにしてゆきます。

ストリングを張り替えたりした場合にはストリングにDループはつけられていないのが普通なのですが、ストリングにS字フックを直接セットしても問題ないと思います。

S字フックがストリング上を移動することになるとは思いますが・・・



ストリングがルーズになるにつれ、ストリングは上に引っ張り上げられてゆくため、カムと一緒に回転してくれます。

これで、ケーブル類のフック外れや、トラックミスは発生しにくくなるはずです。

ボウプレスの構造上、ストリングを引き上げるテンションの方向が真上にはなりにくいのですが、実用レベルでは問題ないと思います。

暫くの間これで様子を見て行くつもりでいます。

America's Best Bowstringsによるストリング/ケーブル交換手順マニュアル

America's Best Bowstringsのディーラ向け資料が到着しました。

商品説明の他に、**Product Manual**がありその中にカムのタイプによるストリング/ケーブルの交換手順が図式化されていました。

代理店であるプロセレクトさんが許可を得てくれたので、ピックアップして資料として公開させていただきます。

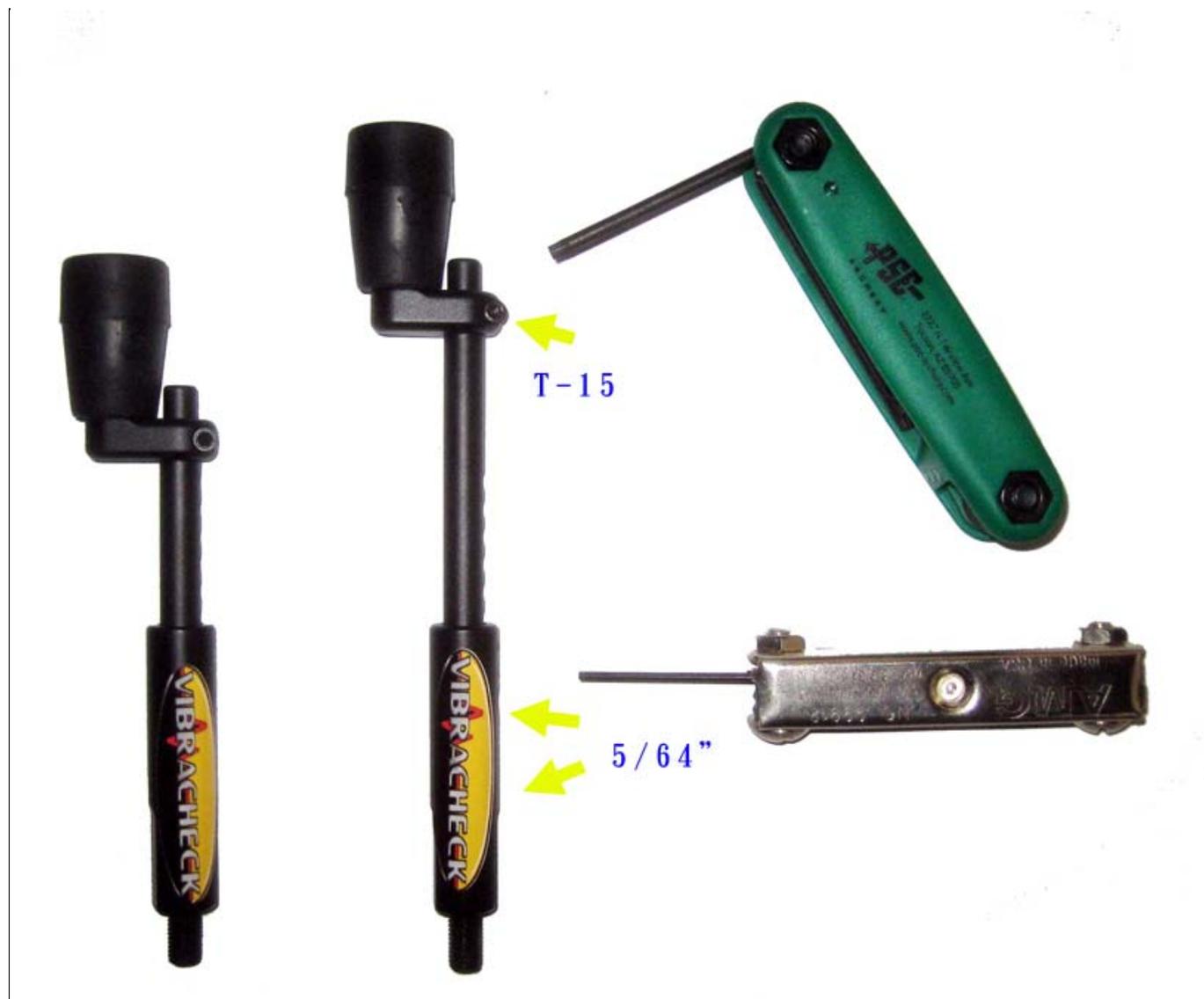
スキャンの関係であまりきれいな画像ではありませんがご容赦ください。



[ABB Product Manual](#)
(ピックアップ)

2013.2.2

PSE 2013 バックストップ2



PSE 2013年バックストップ サンプルが到着しました。

旧モデルとの違いは

☆バックストップの首部分の調整はヘックスローブのT-15が必要です。

☆ロッドの長さ調整のレンチが1/16から5/64に変更されています。

ただし、現時点で同封されている説明書は旧タイプの1/16インチで説明されていますので注意が必要です。

(4.1/2-6.1/4

)

(5.1/2-7.3/4

)

写真は左がショート インチプレース適用 、右がロング インチプレース適用 です。

また右上のグリーンのレンチは同時発売のスターレンチ(ヘックスローブレンチ)です。
サイズは**T-9・T-10・T-15・T-20・T-25・T-27・T-30・T-40**です。

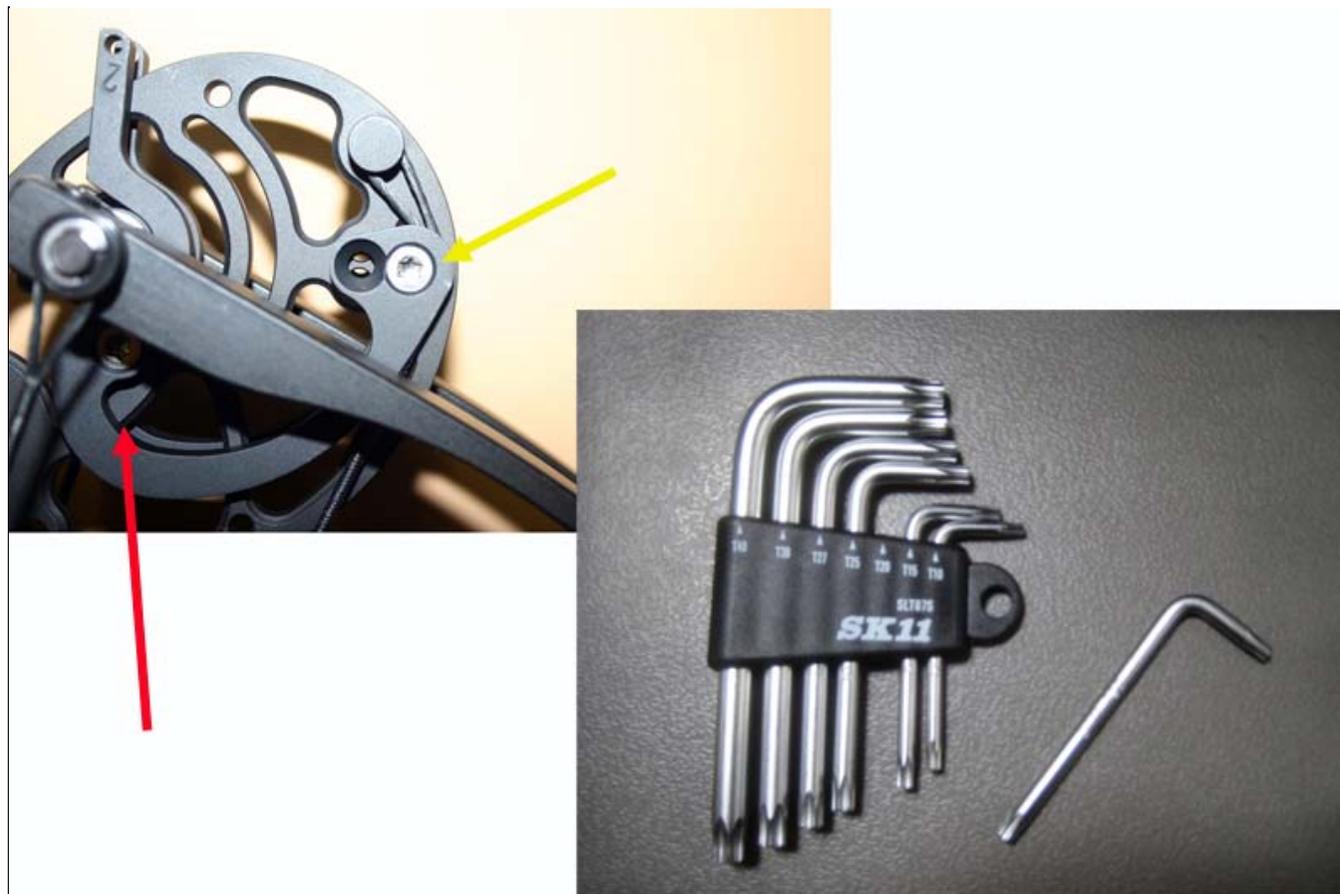
今回図示しませんでした**が2013年出荷のカムのモジュールの止めねじおよびドローストッパーの固定ねじが星形のヘックスローブに変更されています。**

バックストップ**2**、カムの止めねじのいずれも**T-15**というサイズのヘックスローブレンチが必要になりますのでこのレンチの購入をお勧めします。(DST36用の**T-20**も含まれています)

いずれも価格は**2,600円**となります。

2012.12.26

DST36のドロールングス調整



ヘックスグローブタイプのレンチセットを入手しました。

DSTのカムに使われている星形ねじはレンチのT20サイズが適合。

このモデル調べてもらすと、ケーブル/ストリングとも452Xがベースのようなのでストリングに8125(私の場合は8190)を使っているリファレンスポウ(PSE・Revenge)に比較して奥行き感がありません。

私は若干の奥行き感があるほうが好みなので、モジュールの位置変更でドローレングスを伸ばしてみました。

モジュールを止めているのは2本の星形ねじで写真の赤矢印の処がピボットになり、黄色の処がモジュールの位置固定用です。

モジュールのホールは5個あり可変することで1/4インチ前後のドローレングス調整が可能とのこと。

今回は、26.1/4インチのドローレングスを26.3/4インチまで伸ばしてみました。

結果、アンカーリングに安定感が出ましたが、まだちょっと奥がソリッドな感じですが。これはストリングに使われている452Xのキャラクターがそのまま出た感じで、もっと奥行き感を求めるならストリング素材を8125ないしは8190にした方が良いのかもしれませんが、

それはまた後日試してみることにして、とりあえずはオリジナルのまま実射テストを行うことにしました。

OK-Archery DST36



ドイツのメーカー**OK-Archery**社製コンパウンドボウ**DST36**をテストする機会がありました。

この弓は、ある意味**CP**ボウの理想でもあるフルシンメトリー構成(完全対称形)のモデルです。

4本のケーブルに支えられた上下カムはケーブルガイドにより横にオフセットされないため理論上カムのリーン(傾き)に悩まされることはありません。

その上、右/左兼用というメーカーとしては美味しい構成になっています。

このモデルではその上に、ダメ押しのようにハンドルライザーもシュートスルー構成にもなっています。

ケーブルガイドによって横方向のねじれストレスはなくてもライザーはそのカムの影響で横方向に多少の歪みは発生するのをこのモデルでは徹底的に排除しようというコンセプトで作られたようで、現在考える一番理想的な構成といえると思います。

過去に、ケーブルガイドレスのモデルは2機種経験してきました。

1台は**TSS QuadraFlex**でこれはカムの形状でカムリーンの影響を軽減する設計によりケーブルガイドレスを実現したモデルでした。



もう1つは残念ながら、現在は製造活動をしているBowmanのAccurizerのWedel CAMで、こちらはDST36と同様に4本のケーブルで構成されたシュートスルーケーブルのスタイルを採用していました。

こちらはTSS Quadra Flexです。



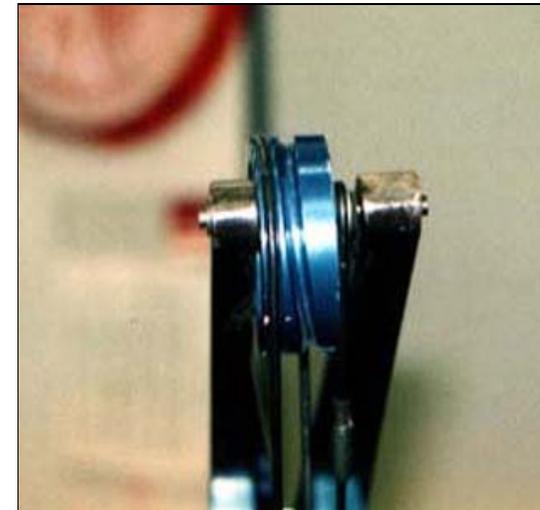
TSS Quadra Flexの上カムの写真です。

これはドローしていない状態のものでケーブルは、ヴェインのクリアランスを確保できるように右に寄っています。



こちらはフルドロの状態、幅の広いドラム型のカムに斜めの溝を彫りドロイングに従ってケーブルを左右にシフトするようにしています。

つまり、フルドロの時にはカムのリーンが発生しないようにケーブルをストリングに接近させ、シュート時(ブレースハイト位置付近では)にはケーブルがストリングより離れてヴェインのクリアランスを確保するというものでした。



さて、こちらはDST36と同様シュートスルーケーブルを採用したBowMan Accuriser IIです。

このタイプII以後Bowmanは資金難を理由に活動を停止してしまっていて残念です。



このモデルが登場した時に、今度はシュートスルーライザーではとBowmanに質問してもらったことがあるのですが、この時点ではライザーの強度が十分なはずなので考えていないとのことでした。

しかし、頭の中にはあったに違いないと今でも思っているのですが・・・・

さて、DST36のカムですが大きさが3種類ほどあるようでそれに何種類かのモジュールを組み合わせて出荷ということになっているようです。

今回はATA 26インチなのでSカムに2番モジュールが組み合わされてきました。

調整の幅は2インチ範囲のようなのでドロレングスがはっきりわかったアーチャーしかオーダーできないと考えたほうが良いと思います。

ところで、モジュールの止めねじは星形のヘッ

クスローブ・トルクスねじといわれるものが使用されているので特殊な工具がないと取り外しできません。

また、ドロレングスの調整はこのねじを取り外すと同時にモジュールにかかっているケーブルを外さないとならないためボウプレスなしでは調整できません。



さて、このモデルリムも細身でカムも薄いので全体にリム部分の幅がせまく**Sure-LOC**のプレス(リムアダプタ装着)では危険でした。

仕方なく、**EZ-Press**を使いましたが今度は、リムの厚みがありすぎてリムアダプタがセットできません。

仕方なく**EZ-Press**そのまま使用しましたがセッティングや押し位置などにちょっと神経を使う必要がありました。

さて、組み込みに際し今一番のお勧めレストである**ABB**の**Rubix**でファールアウェイモードでセットしてみたのですが、倒れてみタイミングの調整のためドロイングマシンでフルドロしてみたら、右の写真のような羽目に.....

当然のようにカムにリーンが発生し、これではせっかくのフルシンメトリーモデルのが死んでしまいま

す。

ということでファールアウェイを取りやめブレードタイプに変更しました。

シュートスルーライザーという特殊形状を考えればレストダウンしにくいファールアウェイが好ましいのですが仕方ありません。

どうしてもという場合には、リムドライブタイプという選択肢もあるのですが使いにくい部分があるので今回は見送りに。



こちらはオプション取り付けになるストリングストップです。

ストッパーの調整はPSEなどと異なり、ホールによるものではなく、4本のねじで止めるもの。

この方式だと緩む可能性もありますが、微調整は可能です。

ストリング/ケーブルの素材はメーカーに問い合わせてもらっていますが、ポンド調整でブレースハイトが変化するので微調整できるのはありがたいともいえます。

組み込み終了して、実射してみました。

出荷状態では50#だったのですが、現在の私の体力ではちょっときつめなのでリムボルトを2回転(これが限界と考えています)緩めた結果45#になりました。

さて、ドローレングスは測定ではきっちり出ているのですがリファレンスに使っているPSEに比べると奥行き感がなくきっちりといった印象です。

4本ケーブルによるシュートスルーシステムは理論上

は理想的なのですが実際に人間が使うということレベルではいろいろと問題があるのは過去の2機種でわかっています。

まず4本のケーブルのテンションを同じにするのがとても大変であるというチューナー側の悩み部分。

そしてシューターとしては出来心でのミスショット(特に引っかけリリース)などでは許容範囲が非常に狭いという問題。

これは、ケーブルがダンプされていないことにより発生するものです。

ケーブルガイドが存在しないということはセットやその寿命にに関して言えば非常に良いことなのです。

しかし、ケーブルガイドがそのテンションの故にミスショットによるケーブルの揺れや振動をダンプしてくれているという事実もあるのでかならずしも悪いとは言いきれないのです。



数射慣らしを終えてからペーパーを試してみました。

セッティングはもちろん、サイトもレストもフルセンターショット。

左右は見事になし、レストの上下調整のみで写真レベルになりました。

さて、疲労等によるミスショットではどうなるのかはこれからです。

スケジュールの都合で距離で実射できるのは1 2月半ばになる予定ですがまたレポートいたします。



2012.12.1

Hybrid Camのリーク調整



先日来、テストをしていたハイブリッドカムでのリーン調整ですが、数本に実施しいずれも良い結果が出たのでご報告しておきます。

テストに使用したのは**Stiletto改**(実際には**Revenge DC**と同一)、および**Supra ME**です。

プロセスは

①フルドロの状態にした状態で下カムが垂直により近くなるようにカムのスペーサーの位置をシフトする。

この際、ドローストッパーのエッジがケーブルに接触してダメージを与える位置にないかを確認。

②下カムのリーン調整が終了したら、上カムをヨークのツイスト調整でフルドロ時に垂直になるようにする。

両者がうまく垂直にならない場合もあり得ます。

その場合にはケーブルガイドのオフセット量である程度緩和できるはずですが。



上下カムの垂直が調整が出来たら、レスト・サイトのセンター出しをしてからペーパーで簡単にチェック/調整します。

30メートル(シュートの一貫性に自信があるなら50・70メートルでも可)で実射をしながらアローの飛びだしやグルーピングパターンをチェックし必要ならレストで上下左右の調整を行います。

(グルーピングが縦気味ならノッキングポイントを低く、横傾向なら高く調整するのが基本です)

さて、前述の2本のカムリール調整済のセットを実射してみました。

Stiletto改は私が、**Supra ME**はK氏が行いアローフライトのフィーリングはそれぞれ交代でモニターチェックしまし

た。

どちらもアローの寄れはなく以前より直進性が上がったようです。

K氏の場合は、以前は飛びだしの瞬間横揺れが視認されていたのですが、調整後はアローが直進してゆくのが感じられたとのことでした。

さて、時間の関係でこれ以上詰めたテストはできなかったのですが、どちらも良いフィーリングのセットに仕上がったのは確かです。

ところで、今回、上下カムを写真のように垂直にセットしましたがここが最終位置ではないとおもわれますのでご注意ください。

おそらくもっともよい結果が出る(アローをよれなくまっすぐに押ししてくれる位置)のはカムのリーンが垂直よりどちらかにほんのわずかなだけ傾いた位置である可能性が高いからです。

これはアローのスパインと同じで、静的スパインは選択時のも目安で、最終は動的スパインが結果に影響するのと同じことなのです。

ハイブリッドカムはドライブのための下カムと、変形プーリーである上カムで構成されヨークは上カムにしかついていないため、2カムのようなシンメトリーな調整は不可能です。

とりあえず今回は、一番調整しにくい(ヨークやケーブルガイドでは調整しにくい)下カムの垂直度を固定して、ヨークとケーブルガイドで補正してゆく方法をとりました。

この方法で調整した位置は絶対的なものではないことをくどいようですが強調させていただきます。

ところで、同じときに2カムであるChaosでヨークの調整だけで上下カムの垂直度を調整したものをテストしてもらったのですが、そちらも良いフィーリングと結果が確認されたので併せてご報告しておきます。

2012.11.19

PSE 2013年 アセンブルパーツリスト

Model	Limb	Limb Pocket	Bolt Turn	CAM	Cable Guide	String/Cable	Backstop
Omen Max	961	Centerlock2 Pocket system	10	UF	Flex	ABB	Backstop 2
Dream Season DNA	961	Centerlock2 Pocket system	10	Core Cam	Flex	ABB	Backstop 2
Evo Max	961	Centerlock2 Pocket system	10	EVO	Flex	ABB	Backstop 2
Hammer	961	Pivoting Limb Pocket	10	EVO	-	PSE	Backstop 2
Vendetta	898	-	6	Drive Cam	-	PSE	Backstop 2
Revenge	898	-	6	Drive Cam	-	PSE	Backstop 2
Stiletto	898	-	6	Mini EVO	-	PSE	Backstop 2
Freak Max	961	Centerlock2 Pocket system	10	Evo	Flex	ABB	Backstop 2
Drive	961	Pivoting Limb Pocket	10	Drive Cam	-	PSE	Sting

Dominator Max	961	Centerlock2 Pocket system	10	Mini EVO	Flex	ABB	Backstop 2
Dominator 3D Max	961	Centerlock2 Pocket system	10	Mini EVO	Flex	ABB	Backstop 2
Supra Max	961	Centerlock2 Pocket system	10	Mini EVO	Flex	ABB	Backstop 2
Phenom	861	Pivoting Limb Pocket	10	Mini EVO	-	PSE	Backstop 2

- 従来型

ABB America's Best Bowstrings

PSEの2013年モデルの組み込みパーツをリスト化してみました。
お好みのモデルを選択する際にお使いいただければ幸いです。

☆リムの種別ナンバー・ストリングのメーカーに関しては:現時点では推測です。

☆PSEが2013年チューンチャートを正式発表するまで、裏付けが取れていませんのでご了承ください。

当初Phenomのリムを961と表記しましたが、チューンチャートから新しい861を適用と判明しましたので訂正いたします。(2013.2.7)